

特集：6-3-3制からサレジオ4-4-4制へ



「おじいちゃん・おばあちゃんと一緒に(敬老の日お祝い会)」

「子どもの遊びの世界 夢、憧れ、そして希望へ」

静岡サレジオ幼稚園園長 河原崎 靖子

子どもは、どうしてこんなにも成長するのでしょうか。

マントをつけて変身し飛び回っている子、ドレスを着ている子。幼稚園で子どもと共に生活していると知らずのうちに空想の世界の一人になった様な気持ちになります。大きくなったら戦隊もののヒーローやお姫様になりたいという夢には、大人の私達がすでに失ってしまった「純粋さ」や「真理」を思いおこさせられます。その純粋さの中で、自分の空想を現実化しようと自己発揮し主人公になりきる。また、現実に友達と同じようにしたいと強く望み、そうなりたいと憧れる。その様な気持ちを一体いつ頃から抱くのでしょうか。純真無垢な状態で産まれた赤ちゃんは、生後わずか数時間で大人をモデルにして、連続的な口開けや手の握りしめ等を再生しているとピアジェは述べています。初めてのモデルはお母さんなのかもしれません。ドン・ボスコも幼い頃母親から受けた祈る姿勢、自分が受けた眼差し、共に行うという家庭的教育環境が今土台となり、自ら

が模範となる教育を導いているのだと思います。

子どもは、成長していく中で自分という存在を知り、更に自分とは違う相手に気づきます。この頃から様々な事に興味関心が広がり、真似をしようとしています。子どもは年齢が小さければ小さいほど何かに憧れ、そのものをよく見てまねて学ぼうとします。この模倣の学び方は観察学習と呼ばれているもので、幼児期の発達特性上、最も適した学び方だと言われています。

昨今は、様々な社会問題を耳にします。子ども達の将来を考えるあまり、大事な幼児期なくして先を急ぎすぎてしまったのではないかと思わずにはいられません。子どもがドキドキするような楽しい遊びや、目が自然とキラキラ輝くような毎日を送る環境作りを考え、本来あるべき幼児期を過ごすことができるよう考えていきたいです。そして、憧れるという言葉を抱き今だからできる体験をして欲しいと願っています。すでに子どもは神様から頂いた「憧れ」という素敵な気持ちを持って、夢の実現に向けて自分の足で歩き始めているのかもしれません。ドン・ボスコのように子ども達から憧れられる存在となれますように……。

「プライマリーステージ」～P4(小学4年生)リーダーたち、がんばります!～

プライマリーステージでは、最上級生としての役目を4年生が担うことになりました。これまでは6年生や児童会が中心となってやってきてくれたことを、今年度から4年生がチャレンジしていきます。

P4リーダーとして初めての仕事は、運動会練習のリーダーでした。運動会準備のため、毎朝1年生から4年生までの練習をしました。運動会の本番はもちろん6年生が中心だったのですが、練習では4年生を中心に行ない、運動会が初めての1年生を優しくサポートしていました。プライマリーだけの練習をしっかりとったおかげで、ミドルステージの5・6年生と合流した時にも失敗せずに出来ました。



次に、最近では「プライマリー集会」として、朝礼の時間に1年生から4年生が体育館に集まり、クラスや学年を超えて仲良くなるために「友達つくろうゲーム」を行ないました。4年生が、司会進行役で進めました。2人組でジャンケンをし、お互いに自己紹介をします。出来るだけ

多くの子と友達になろうと、みんな積極的にジャンケンをして楽しんでいました。制限時間は3分間でしたが、多い子で20人近くの友達と関わる事が出来ました。最初は恥ずかしくて、なかなか自分から関わる事の出来ない1年生もいましたが、4年生が率先してジャンケンをしていきました。他にも、4年生が考えた夏休みの目標を、低学年にも解りやすく発表をしました。4年生、がんばっていました。クラスを超え、学年を超え、プライマリーステージがもっと仲良くなるために、P4リーダーのチャレンジはまだまだ続きます! P4リーダー、がんばれ!!



「ミドルステージ ～共にいる教育、個性を輝かせる～」

“中1ギャップ”という言葉をご存知ですか？

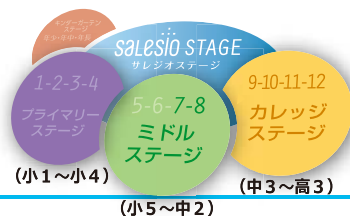
“中1ギャップ”とは、小学6年生が中学1年生となった時に学校生活や授業の進め方など、新しい環境に馴染めないことから様々な問題が出てくる現象のことです。

この“中1ギャップ”を解消すべく、M5(小学5年生)からM8(中学2年生)までのミドルステージでは児童・生徒の発達段階に合った指導を行なっています。10～14才は、人間の心を育てる上でもっとも大切な時期の一つです。教師は対話を大切にしながら一人ひとりを理解し、児童・生徒たちに画一的な指導ではなく、各々のペースで考えを深めていくことができるよう接しています。

学習面では、M5・6の算数、M7・8の国語・数学・英語の主要3教科において習熟度別授業を行ない、各々のニーズに応える授業を展開しています。そのため、一人ひとりが基礎から応用までを学ぶことができ、着実に確かな学力を身につけています。また、創立者ドン・ボスコが大切に



した「共にいる教育」を実践するために、教師は児童・生徒たちといつも一緒にいて、より高いレベルを目指して頑張っています。授業中では人との関わりの中で学び、自らの考えを深める子の育成を目指しています。ディベートやディスカッション、プレゼンテーションなどの言語活動、自分または他者との協力を通して表現する活動を行なう中で、思考力・表現力を養います。本校では毎年11月に公開研究会を行ない、今年度は特にミドルステージにスポットを当て、「Intakeを中心とした授業づくり～学び、



深め、伝える力の育成を目指して～」をテーマに授業実践を研究しています。

生活面では、心身ともに大きく変化するこの時期に様々な体験・経験を通して学んでいきます。M6でのオーストラリア修学旅行やM8でのニューヨーク研修では、他国の文化を学び、周りの人の優しさに触れ、国際的視野を広げます。その他にも「上智大学訪問」、「合唱コンクール」、「球技大会」などの楽しい充実した行事が目白押しです。

日常生活の中にも学年の枠を越えた本校だからできる活動を行なっています。5月に行なわれた「聖母祭」では、ミドルステージの中で縦割りグループを作り、フィリピンの友達のための支援物資の荷作りやグリーティングカード作りなどのボランティア活動を行ないました。中学生は、小学生に分かるように言葉掛けに工夫しながら上級生として引っ張っていました。また、小学生は、テキパキ行動する中学生の姿に憧れを抱いていました。7月にはM6がM8と一緒に授業を体験する「中学交流会」、昼休みを活用し、ミドルステージでの「ドッジボール大会」を行なうなど、学年の枠を越えたステージでの活動を積極的に行なっています。このように様々な体験を通して仲間意識を育て、価値観の多様化を図りながら、最終段階であるカレッジステージでの時間が充実したものになるように準備をしています。

心・身体・知識、この3つがより成長する、大切な四年間のミドルステージ。児童・生徒たちの持っている個性をより輝かすことができるように努力してまいります。



「カレッジステージ」

最終ステージであるカレッジステージ。将来の自分の方向性をしっかりフォーカスするのがここです。どんな生き方をしたいか、どんな事に役立つ人になりたいか、それを問うのがこのステージです。夢につき進む、各コースの生徒それぞれに、感想を聞いてみました。

ソフィアコース (内田 実来さん)

外国語を学び自分の世界を広げて国際的に活躍できる人になりたいと思い、英語教育でトップレベルの上智大学へ進めるソフィアコースを選びました。入ってみると意外に大変です。授業はもちろんですが、朝礼、朝読書に至るまで、オールイングリッシュ。おかげで語彙も自然に増え、センテンスの意味も正しく理解できるようになりました。もっと英語でのスムーズなコミュニケーションができるように、全力で勉強を続けていきたいです。



フロンティアコース (杉岡 沙奈さん)

進路をしっかりと選ぶためにも勉強を基礎から学びたかったので、私はフロンティアコースを選びました。授業の内容がわかりやすくゆっくり進んでいくので、基礎力がきちんと身につけてきました。また、自分のペースで進めるところも良いです。空いた時間で、自分に必要な勉強することができます。確かな実力をつけて、じっくり自分の進路を考え、指定校枠のある大学を視野に入れながら学んでいきたいと思えます。



エグゼコース (城田 温人くん)

僕は「医師になりたい」という気持ちをはっきりしていたので、難関大学医学部を目指すエグゼコースが自分に合っていると思い、このコースを選びました。このコースでは本当に勉強をするための環境が整っていて、例えば休み時間も席について勉強している友人がたくさんいたり、授業に対してもクラス全員が真剣な姿勢で取り組んでいたりするので、目標に集中して勉強を進められます。切磋琢磨できる仲間と目標進路達成を目指します。



熱闘、そして涙の絆

高校球技大会
7月17・18日(木・金)

クラスの絆を強くする、最も熱い行事のひとつが、炎天下に燃える闘志をぶつけあう、この球技大会です。クラスメイトの声援を力にかけて、学年をこえた実力本位の真剣勝負がグラウンドで繰り広げられます。

1年生チームが3年生チームを打ち負かしたり、普段は仲良しの2年生のチーム同士が火花を散らしてぶつかり合ったり。そして、勝っても負けても、クラスメイトからの惜しめない拍手がプレイヤーたちを包み、みんな笑顔でがんばりを讃える。ときには、その笑顔がクラスみんなのくやし涙に変わることもあります。今年はずっと、そんな「涙」が胸を打つ大会でした。サッカーの決勝では、高3が高1にまさかの敗北。バレーボールでも1年生チームが劇的な勝利をおさめるという大波乱のうちに、熱戦の幕が下りました。

卓球は現役部員や経験者が中心ですが、二日間タフなスケジュールをこなさなければなりません。「さすが」と思わせるスーパープレイを連発する戦いが、卓球場を熱くしました。

サッカー・バスケット・バレー・ドッジボールは、各種目を得意とする生徒達を中心となりますが、クラブチームに所属する生徒や、現役部員・経験者には、シュート・スパイクに制約が与えられます。その生徒達のポテンシャルとチームメイト一人一人の頑張りがどうかみ合うか、「いかに全員で戦うか」が勝負の分かれ目だったのかもしれない、と表彰式で校長先生から講評をいただきました。

どのクラスもチーム一丸となって一戦一戦全力であたり、強い日差しも暑さもなんのその、力一杯のフェアプレイで、それぞれに思い出深いゲームを戦い抜きました。

今年度の成績は以下のとおり。

	優勝	準優勝
サッカー	12・13HR	33HR
バスケット	23HR	33HR
ドッジボール	21HR	1BHR
バレーボール	13HR	22HR
卓球	22HR佐野君	23HR大森君



平和への願いを胸に刻んで

英数科沖縄研修旅行
7月13日(日)～17日(木)

台風の影響で、出発を延期した今年の英数科沖縄研修旅行。ハラハラした分だけ、現地での思い出は印象深いものになりました。まぶしい太陽と美しい海を満喫した五日間は、楽しい思い出と忘れられない出会いの連続。貴重なひとときを過ごすことができました。

沖縄本島に飛行機で到着後、一泊してから与論島へ。素朴でかざらない島の皆さんのもてなしに、すっかりリラックスして、笑ったり歌ったり踊ったり。海辺での遊びも南の島でなければ楽しめない光景と発見にあふれていました。だんだん日焼けも気にならなくなり、「結局日焼けしちゃったけどまあいいや」と思えるくらい、島の訪問は魅力的でした。

沖縄本島でも、珍しい自然・食べ物・音楽といった、独特な風土を肌で感じました。けれども、最も心に深く刻まれたのは沖縄という島にしみ込んでいる戦争の記憶と、「平和」を求める県民の皆さんの思いの強さ。「ひめゆりの塔」には、自分たちと同じ年頃のたくさんの女子生徒達が、家族と離れ国の為にと、青春と命を犠牲にした悲しさや苦しみが、まだまだ色濃く残っていました。「平和の礎」に刻まれたおびただしい戦死者の数には、改めて今ここにある平和の重みを考えさせられました。そして、どこまでも続く基地のフェンス。これから、私たちはこの問題にどう向き合うのか、大きな宿題も持ち帰った旅になりました。



サレジオの「真心」が 世界に届きますように

シスター・マリア・カプート歓迎セレモニー
4月15日(火)

国連欧州本部があるスイス・ジュネーブから、人権活動を続けているシスター・マリア・カプートが、本校を訪問されました。

【VIDESインターナショナル】の代表でもあるシスターは、私たちサレジオ生が協力しているフィリピン支援活動にとっても関心を持っていらっしゃいます。そこで【VIDES静岡Jr.】と高校生生徒会が中心になって、小中高合同でシスターの歓迎会を催しました。

イタリア語のご挨拶の練習やドン・ボスコ200年記念ソング「道標」の練習などをすませ準備は万端。大きな拍手でシスターをマリアンホールにお迎えし、精一杯のおもてなしをしました。司会を務めた高校生生徒会の二人が、日本語と英語を使い分けスムーズに会を進行、「これまでVIDESの活動やフィリピン支援に協力して下さった方は起立して下さい」と呼びかけると、シスターをぐるりと取り囲むように多くの児童生徒が立ち上がり、普段から取り組んでいる活動の確かな広がりが見え、一目瞭然に伝わりました。シスターも驚かれ、「みなさんの活動に感謝します。特別な意識などせず、人のために働けるみなさんは、本当に素晴らしい」とお言葉をくださいました。

ステージから、私たちサレジオ生の様子をご自分のビデオにおさめられたり、会場の外でも生徒たちと活発にお話をしてくださったり、と、アクティブで気さくなお人柄に、私たちもすっかり魅了されました。世界中を飛び回るシスターにも、きっと、サレジオ生の真心をお届けできたのではないのでしょうか。気持ちが温まる、すてきな歓迎会となりました。



ミドル「星の子活動」と 高校生がコラボで海外支援

聖母祭・海外物資支援活動
5月24日(土)

聖母祭の第一部として行なわれてきた「地域清掃」が、今年は様変わり。高校生だけでなくミドルステージのみなさんもいっしょに、夏に実施されるフィリピンボランティア研修の事前準備と支援物資の輸送準備をしてくださいました。ここで小学校のみなさんが、日ごろ実践している「星の子活動」の“力”が大いに発揮されました。

前日、提供された文房具やおもちゃ・洋服などの支援物資を、高校生の有志が仕分け、作業を行なう教室まで搬入しました。全校生徒に呼び掛けて、集められた物資はおよそ段ボールに12箱分。これに企業からの寄付品のタオルやTシャツが加わり、文房具・洋服・おもちゃ、生活用品などに分けられて、およそ23箱の物資が、ミドル生に託されました。当日はこれまでフィリピンボランティア研修に参加した高校生とVIDESジュニアのメンバーが各教室を巡回して、物資をフィリピンの子ども達へのプレゼント用にセットアップするのをサポート。実際にフィリピンで見てきたことや、支援物資がどのような形でフィリピンの子ども達に渡されるのかも、写真パネルを使って説明しました。

M7・8も「星の子活動」に加わって、ミドルステージ全体と高校生によるコラボレーション・ボランティアが実現しました。

セットされたプレゼントは、グリーンコリドーに集められ、再び高校生たちの手へ。そして海外支援物資専用の段ボールに詰められて、



横浜港へ出荷されました。この活動で準備していただいたタオル・石けんセットや、たくさんのプレゼントは8月に行なわれたフィリピン研修で現地の子どもの手に渡されました。たくさんの飾りのおかげで、ミッションキャンプ会場も例年以上の華やかさに。ネグロスの子どもの手も大喜びでした。

フィリピン研修の様子は、これから学園の皆さんにご報告してまいります。

ミドルステージ

【みんな白熱！！中学生スポーツ大会】

7月11日台風一過の澄み渡った青空の下、中学生スポーツ大会が行なわれました。

男子はサッカー、女子はバスケットボールとドッジボールの種目に全員が参加し、クラス優勝、各種目の優勝を目指します。

体育の授業など限られた練習時間を使い、お互いのポジションを確認したり、戦法を考えたりとクラス全員で目標に向かって取り組んでいる姿が見られました。



大会当日、どの試合も生徒たちの熱い気持ちが溢れるプレーが見られ、白熱した試合展開となりました。

その姿に、応援する生徒・先生方も力いっぱい熱いエールを送っていました。

目標に届かなかったクラスもありましたが、喜びや悔しさを共に分かち合い、より一層クラスの団結力が高まったスポーツ大会となりました。



大会の結果

	総合 (クラス)	サッカー	ドッジ ボール	バスケット ボール
優勝	C9S	M8A	C9S	C9S
第2位	C9E	C9S	M7B	M7A
第3位	M7B	C9E	M7C	C9E

M8 校外学習

7月18日、「静岡科学館るくる」と、「静岡新聞社・SBS静岡放送」に行ってきました。

「るくる」なんて小学生の時にいった、と期待していなかった生徒もいましたが、中学生になって理科で学んでいることが楽しく体験できるとあって、皆、新たな面白さに気づくことができました。「わくわく科学工作体験」では“ベンハムのこま”のつくり方を教わり、目の錯覚の不思議さを実感できました。生徒たちは、視神経の伝達や脳の働き、光と色の認識、色の三原色などに大いに興味を持ったようです。

新聞社では新聞ができるまでの過程を学び、ものすごい速さで夕刊が次々に印刷、出荷されていく様子を見学できました。毎日大量の紙やインクを使いながらも、リサイクルや環境への取り組みについて知ることもできました。テレビ局のスタジオでは見覚えのある

“みなスポ”などのセットを間近に見せていただき、普段見られない舞台裏やカメラの動きなどを学びました。B組は短い時間でしたが、ラジオ局の生放送に飛び入り参加。自分たちの声が電波に乗るという貴重な体験に大興奮でした。

教室では得られないさまざまな体験を通して、身をもって学ぶことの大切さを感じた一日でした。



ベンハムのこま作り



スタジオ見学

M7 上智大学訪問

卒業生が案内をしてくれました



7月18日、M7は提携校の上智大学を訪問しました。学内に入ると様々な国の言葉が話されており、そのグローバルな環境に驚きました。最初に全体で学校紹介のDVDを見てから、学食で大学生と一緒に昼食を食べました。また、午後からは本校の卒業生が学校案内をしてくれました。充実した施設や、学生がいきいきと活動している様子を見たことで、大学のイメージが変わった人や、自分の将来を考えるきっかけとなった人も多かったようです。大学訪問は初めてという生徒がほとんどでしたが、大学の雰囲気や良さを感じることができた一日になりました。

《生徒の感想より》私は今まで何度か大学を訪問したことはありましたが、見学をするのは今回が初めてでした。すごく緊張しましたが、入ったとたん緊張が興奮に変わりました。実際に私が行きたい学科の先輩とも話ができて、とても良い勉強になりました。また、刺激を受けたことでもっと頑張らなくてはならないと思いました。中学1年生でこのような経験ができるのはとても貴重なことだと思うので、これを無駄にせず学校生活に活かしていきたいです。 坂倉 百香

ミドルステージ

M6 東京・鎌倉宿泊学習

【日本の中枢の見学と史跡巡り】

7月8・9日の1泊2日で、M6は東京・鎌倉宿泊学習に行ってきた。

1日目は国会議事堂、最高裁判所、東京タワー、四季劇場を訪れました。新幹線の中から「東京」という言葉に児童たちは興奮していました。

国会議事堂では、衆議院議員 望月義夫さんから国会での仕組みや国会での仕事などのお話を聞きました。

その後、本会議場などの議事堂を見学し、参議院特別プログラムを体験しました。代表の友達が議長役、厚生労働大臣役などを務め、模擬委員会、本会議を行ないました。テレビの中でしか見たことがなかった児童たちは、代表の友達の発言に耳を傾け、目の前で法案が可決される様子を見ていました。



最高裁判所では、ここで行なわれる裁判について、裁判官の仕事など、裁判所の厳かな雰囲気と広さの中、児童たちは真剣な眼差しでお話を聞いていました。また東京タワーから見える日本の中枢である「東京」の景色の素晴らしさ、大迫力と臨場感が伝わってくる「ライオンキング」に児童たちは目を輝かせながら見ていました。

2日目はグループごとで鎌倉の史跡巡りを行ないました。鶴岡八幡宮を全員で散策した後、史跡巡りがスタートしました。事前に自分たちで訪れたい場所を調べ、オリジナル・マップを作りました。

最初は順調だったものの、途中「どっちに行くの?」、「分からないよう…」と迷うグループもありました。それでも、みんな知恵を出し合いながら、無事に自分たちが計画した通りに活動することができました。「疲れた」と言いながらもみんな満足げな顔をしていました。その後、高德院でガイドさんから鎌倉の大仏様のお話を聞き、みんなで参拝しました。

社会科の学習を通して、公共のルールやマナーも学習することができた実りある宿泊学習となりました。



M5 English Camp in なかとも青少年自然の里

7月15日から17日にかけて、M5は山梨県にある「なかとも青少年自然の里」でEnglish Campを行ないました。曲がりくねった山道を登り、バスから降りて畑や民家の間を10分ほど歩いたところに、この施設はあります。動物よけの電線が張られた畑や、本物

の囲炉裏がある部屋など普段では見られないものもたくさんありました。このEnglish Campは、オーストラリアでの修学旅行を見据えた日常英会話の練習を目的とした様々なアクティビティーが用意されたCampですが、自然と親しみ、仲間と共に日本文化の体験をすることも大切な目的のひとつです。

最初の活動は、写真から施設内に隠されたアルファベットを探し、英語の単語にするフォトオリエンテーリングです。写真を手がかりに、初めて来た施設の中をバスの疲れや日照りをものともせず探索していました。

1日目の夜はキャンプファイヤーです。English Campなので、ただのキャンプファイヤーではないのです。司会進行も歌も英語で行ない、怖い話も英語で聞いたりなど、真っ暗になるのも忘れて楽しみました。また、フォークダンス後にはマシュマロをビスケットに挟んで、夜のおやつもいただきました。

日本の文化体験では和紙づくりと草木染めを体験しました。和紙づくりでは紙漉をして、その上に色水や落ち葉を使って模様を作ります。はがきと色紙の二種類を作りました。草木染めでは茜の根を使って白いハンカチを染めました。同じ茜の根を使っているのに、媒染液の違いで色の雰囲気が変わることや絞り方で模様が変わることを実際に体験しながら知ることができたようです。



2日目の昼食はグループで協力して「おざら」を麺から作って食べました。昨年の山中林間学校でつくった「ほうとう」と同じ郷土料理ですが、「おざら」は冷たい麺を温かいつゆにつけて食べるものです。麺の



太さがちがうということなどを教わりながら、揚げたての天ぷらと一緒にいただきました。

英語の活動の中でも大変盛り上がったのは、英語の寸劇

“Let's enjoy Drama”です。

グループに分かれて日本の昔話を自由に英語で表現しました。短い時間の中で各グループ、試行錯誤しながらひとつのものを作り上げ、ネイティブの先生達が審査員となって発表会を行ないました。

最終日の“English Activity”は最後の活動です。オーストラリアでのホームステイを想定したいくつかのシチュエーションを元に、グループでブースを回り、家族紹介や外国のお金での買い物体験、クリケットの試合などを行ないました。この頃にはすっかりネイティブの先生方に慣れて、一生懸命英語で伝えようとしていたり、親しげに活動したりしている姿が見られました。

天候にも恵まれて暑い日が続いたのですが、自然・日本文化・英語にどっぷりつきながら、活動を通して友だちとの友情や協力を深めた、楽しい三日間でした。

P3 桃沢林間学校

「わあ、気持ちいい！」
子供たちの明るい声が響きます。まぶしい日差しの中、桃沢川の水面がきらきら光っています。

3年生は、7月24・25日に桃沢野外活動センターに行ってきました。サレジオ小学校では3年生から宿泊学習が始まるため、子ども達にとっては初めての経験です。中には、川遊びが初めての子もいます。岩が苔で滑ることも、大発見のようでした。「オタマジャクシがいるよ。」「こっちへ来て。」「変わった石があるよ。」、さまざまな声が飛び交う中、バッシューン！何人かは、足だけでなく全身濡れてしまいました。でも、みんな笑顔で岩の上へ。岩に座っている間に体操着が乾いてしまいそうな夏の日差しを心ゆくまで楽しみました。

午前中の自然観察の時に、トカゲを見つけたグループは、大喜びでした。トカゲが噛むことを初めて知って、びっくりしていました。



夜には、お楽しみ
のナイトハイクがありました。グループで1つの懐中電灯を持ち、時間差で出発します。中には、泣いてしまう子もいたのですが、その子を真ん中にしてあげたり、手をつないだりとグループで協力する姿が見られました。

翌日はハイキング。5キロの道のりです。ここでも、「がんばって。」「もう少しだよ。」

と、友達同士で励ましあう声をたくさん聞くことができ、成長を感じました。

自然に触れ合い、友達と助け合って生活する、というめあてが達成できた二日間となりました。



～箱根の里 林間学校にでかけよう～

4年生になると「山中林間学校」が例年宿泊施設でしたが、今年は施設の都合により、候補地が変更になりました。三島市にある「箱根の里」を子どもたちの活動場所にしました。第1日目、学校を出発後、途中、柿田川公園で湧水が出る様子を見たり「やすらぎの森」の工作室で木の実を使ってキーホルダーを作ったり、その後、芦ノ湖畔にある箱根の関所を見学したり「箱根の里」に着くまでの間にも、たくさんの活動をしました。

「箱根の里」に着くと、どの子も嬉しそうに「あっ、鳥の鳴き声だ。気持ちが良い。」「空気がきれい。」「木の良いにおいがする。」などと感動の声をあげていました。

キャンプファイヤーやフォークダンス、はんどごうすいさんなど、初めて体験する子もたくさんいました。活動を通して、自分の係の仕事だけでなく、友達の仕事率先して手伝ってあげられる子もたくさんいました。

昨年、3年生の宿泊学習の時には、雨と霧のため、外で行なう予定であったほとんどの活動が出来ず残念な思いをしました。今年も予報は全て雨でしたが、奇跡的に雨はほとんど降らず、満足のいく活動が出来ました。

活動時は、職員の方が細かく指導してくださり、感謝の気持ちでいっぱいでしたが、職員の方からは、子どもたちの態度やマナーについて、とても褒めていただきました。初めて利用させていただいた私達に好印象を持ってくださったことも嬉しいのですが、そのような好印象を与えることが出来た子どもたちを心から誇らしく思いました。



『なかよしデー』で育つもの

1・2年生の生活科では、幼稚園児とペアを組んでいくつかの経験をする異年齢交流活動『仲良しデー』というものがあります。この活動で、「異年齢の子どもとコミュニケーションをとったり相手の立場になって考えたりする」「仲良く活動できるように、自分ができることや役割を考える」等を体験的に学ぶことができますように願っています。一見難しそうですが、1年生の子どもたちには、とても楽しくてわくわくする大切な時間です。



1年生は年中さんとペアになり、お互いの顔と名前を覚えることから始まります。二人で一緒に小学校の花壇に朝顔を植えました。照れと緊張から、最初は小さいペアさんの手をつなぐこともままならなかった1年生ですが、その後開放感ある園庭で一緒に遊ぶうちに、いつしか顔を覚え名前を覚え、すっかりお兄さん・お姉さんになりました。

これで終わるのではなく、日常的に交流が続く、来年度新2年生と年長児になったときまで、その交流が続くような活動を考えていたとき、子どもたちから「育てた朝顔の苗を幼稚園に分けてあげよう」という声。早速、幼稚園の先生方に尋ねたところ「喜んで！」という嬉しいお返事を頂き、昼休みに自分たちでペアさんの部屋に行きました。

相手を思い、自分から行動する力が育っている1年生です。



七夕の集い～願いを込めて☆～

幼稚園のペアさんと初めての出会いから1年3ヶ月が経ちました。1年前は、お互いに緊張していた様子でしたが、それぞれに進級し、ペアさんも年長になり、工作もお話も上手になりました。

同じ敷地内にある幼稚園児と小学生との交流会『なかよしデー』は年に3～4回行なわれます。2年生になった第1回目は、七夕が近いこともあり、一緒に七夕飾りを作りました。色紙の折り方やセロテープのつけ方など優しく丁寧な指導を受けていました。「将来何になりたい?」「わたしはモデル!」「ぼくは運転手さんになりたいな。」会話が弾みました。別れ際「また七夕の集いで会おうね。」と約束し、ペアさんが園舎に入っていく姿を見えなくなるまで見送っていました。



1週間後、第2回目の七夕の集いをしました。2年生の進行と先生方によるペープサート劇『ひこぼしとおひめのお話』が始まると真剣に見入る姿がありました。最後に101名全員で元気よく『たなばたさま』を歌い、集いを終わりました。

子どもたちの願いを乗せた七夕飾りが風に吹かれています。一人ひとりの思いがお星さまに届きますように。

そして活動を通して仲良しの輪が広がっていくことを願っています。



幼稚園

『やぐらだワッショイ 夏祭り!!』

幼稚園の夏祭りは今年で4年目を迎えました。毎年幼稚園の父親の会（サレジオファミリーズ）の方々の趣向を凝らした企画によって、幼稚園いっぱいにお店が広がります。子どもたちにとっては、夏の夕涼みをかねたお楽しみの行事となり、たくさんの卒園生も帰ってきてくれるので、懐かしさいっぱいの大盛り上がりの夏祭りになっています。

そして、今年は“念願の企画”が実現された記念すべき年となりました。「夏祭りといえば“やぐら”がなくっちゃね」と、何気なくつぶやいた一言が4年目にして実現！幼稚園の園庭に大きな『やぐら』が建ったのです。やぐらを建てたのもお父さん。10人程の人数であつという間に完成させたお父さんパワーは感動的でした！

そして、この日は大粒の雨が降ったり、雷もゴロゴロと鳴る不安定な天気でしたが、お父さん達の熱い思いと、職員はもちろん、この日を楽しみにしていたサレジオファミリーみんなの思いが届いて…開始時刻には雨も上がりお店は行列！盆踊りの時間には、やぐらを囲んで“港かっぽれ”“ちびまる子ちゃん音頭”“ドラえもん音頭”などを笑顔いっぱい踊ることができました。今年も、楽しい夏祭りを無事に開催できたことに、神さまのお恵みを感じずにはいませんでした。

『やぐらだワッショイ!』これからは、芝生の上に立派に建った“やぐら”も、サレジオ夏祭りの“風物詩”として皆さんの記憶の中に残っていくことでしょう。



星の子広場

幼稚園では毎週火曜日と金曜日に、未就園児を対象とした“星の子広場”を行なっています。火曜日は2歳～3歳、金曜日は1歳～2歳のクラスです。みこころホールが星の子さんの部屋になっていて、親子と一緒に遊んだりおやつを食べたり、和やかな雰囲気の中で育児の悩みも安心して相談し合える場になっているようで、「こういう場所があつて良かった!」と嬉しい声が聞かれています。日々の遊びには制作あそびやプールあそび、お話会や体操、親子遠足に出かけることもあります。



今年は“食に関するお話”や“歯磨き指導”などの話を聞く機会があり、育児に役立つ知識を学べたようです。



これからの星の子広場も、こどもたちやお母様たちにとって「また来たいな」と思ってもらえるような、ワクワク感と安心感いっぱいの場として、皆さんを迎えていきたいと思っています。

かつお節体験

食卓に登場する真空パック入りの鰹削り節。便利に使っている鰹削り節が、海で泳いでいる魚、鰹から作られていることを、いったいどのくらいの園児が知っているでしょう。7月10日、食育の一環としてYKO133の皆さんをお迎えして、鰹削り体験をしました。YKOとは、焼津（Y）の鰹節屋（K）の親父（O）の略で、133はメンバーの合計年齢だそうです。子育て真っ最中のお父さんということもあって、あっという間に園児の心を掴み、軽妙なトークを繰りひろげて下さいました。



全園児の前で実演して下さいました。鰹の生切りでは、包丁を使い分けながら、頭切り、内蔵除去、三枚卸し、身割りと進んでいきました。実演が進むにつれて、身を乗り出した園児もだんだんと前へ移動していきました。途中、「これが、カツオのへそだよ。」と豆知識も教えて下さり、参観に訪れていたお母様方をうならせる場面もありました。

いよいよ、鰹節を削る体験です。昔懐かしい木箱のかつお節削り器が登場すると、園長先生が腕前をご披露して下さいました。

子どもたちはハンドルをくるくる回すカンナ式のかつお節削り器で鰹節を削り、削り立ての鰹節をさっそくいただきました。始めは恐る恐る口にした子どもたちでしたが、一口食べると「おいしい！」と目を丸くし、「おかわりがほしい。」と、削り立ての鰹節に大喜びでした。



ドキドキワクワク お泊り保育

お父さん、お母さんと離れて過ごす事が初めての子どもがほとんどでした。

ドキドキするけれど、どんな事があるのかなあ…とワクワク♪

一緒に遊んだり、夕飯のカレーを作ってくれるお父さんたちも一緒に、さあ出発です！！

川で泳いだり、水かけっこをしたり、魚釣りをしたよ♪

カニ、おたまじゃくし、ハヤ、ヤマメがいたよ！



ネイチャーゲーム★
白いお花や、青い石、緑色の大きな葉っぱや、ブルーベリー…色々なものがあつたよ！



大きなスイカが割れたよ！！！！
スイカを囲んでみんなで「いただきま〜す★」

夕飯はお父さんたちの特製カレー★
大きな野菜やお肉がたくさん入っていて

「おかわり！」したよ♪

とってもおいしかったよ！ごちそうさま★

その後はお父さん達と一緒に宝探しと、水鉄砲をして遊んで…夜はキャンプファイヤーと花火☆火を囲んでみんなであうたって踊ってワイワイ♪そして、花火もきれいでした★



友だちと仲良く…

おやすみなさい★

朝は6時に起きてご飯を食べて、全員が笑顔でお家に帰って行きました。

自分の事は自分でやって、お友だちと仲良く過ごした二日間でした★

とても楽しい思い出が増え、これからも色々な事に自信を持って取り組んでいってほしいです。

「静岡サレジオ父の会」発足

静岡サレジオ父の会 会長 兼高 崇

本年5月17日に『静岡サレジオ父の会』が発足いたしました。発足にあたりましては、先生方・父母の会会員の皆様のご賛同を賜り、グランディエール・ブケトーカイで設立総会を開催致しました。設立総会には学校長先生、加藤父母の会会長をはじめ50名を超える多くの方々にご臨席を賜り、父の会が盛大にスタートできた事を重ねて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて父の会の活動ですが、発足後1ヶ月程でサレジオ祭を迎えました。時間の都合上、会議を重ねる事も出来ず前日がきてしまいました。それでも、父母の会役員や今までもお力添えして戴いた皆様のご協力を賜り、当日を迎えることが出来ました。また当日は、大勢のお父様方に汗を流してのご協力を賜り、無事サレジオ祭の焼きそば・パパズショップの成功を修める事ができました。7月に入り市内キリスト教四校(静岡サレジオ・雙葉・聖光・英和)の親睦ゴルフコンペに、ゴルフをされる有志のお父様方に参加して戴きました。

『父の会』にご登録戴いているお父様方が130名を超える大所帯です。今までのダディーズ・パパズで活動してきた事を、引き継ぎながら新たな活動を模索していこうと考えております。今後の活動予定と致しまして、10月第2土曜日の学園内親睦ソフトボール大会及び、懇親会、10月に行われます校内清掃(父母の会)に参加していきます。

いうまでもなく私共父の会は、子供たちが静岡サレジオにお世話になっている父親の集まりです。子供たちの教育環境・学校発展を父親の立場からサポートし、会員の親睦を深めていきます。このボランティアには、当然の事ながら皆様のご理解ご協力、そして校長先生をはじめとする多くの先生方にもご参加賜りませんと発展は望めません。どうぞ皆様、『静岡サレジオ父の会』を宜しくお願い致します。



キリスト教4校ソフトボール大会
(兼高崇氏 最前列向かって一番右)

新しいエプロン

同窓会会長 曾根 幹子

今年も6月21日(土)22日(日)とサレジオ祭(バザー)が開催されました。年々、寄付品が減っている中、今回は同窓会の皆様のおかげでいつになく物品が多く集まり、同窓会ブースは盛況のうちに終えることができました。ご協力、本当に感謝いたします。

さて、同窓会ではバザーの時などにお揃いのエプロンをつけて作業しているのですが、かなり昔のデザインのため、少し窮屈だとの声が聞かれるようになりました。昔とは体格も違ってきていますし、男女共学になってから男子が着用するには小さすぎるのでは・・・とのことで、思いきって新調することにしました。同窓会連絡委員会で承認を得てから、役員で片山衣料さんに伺い、エプロンとユニオーネの刺繍の色を選びました。たくさん色見本を見ながら、あれこれと迷いつつ、お勧めなども教えていただき、やっと決めたのは黄色のエプロン。初めは少し派手ではないだろうか心配しましたが、出来上がってみると、オレンジがかった黄色で思いのほか上品な色合いになりました。何よりもエプロンをしている同窓生が混雑しているバザー会場ですぐに見つけられるので便利?です。今度、見かけたら是非お声をかけてくださいね。

また同窓会ではお手伝いをしてくださる同窓生を募集しています。同窓生の皆様のご協力なしでは何もできません。毎回ではなくても出来る時だけで構いませんので興味のある方はご連絡ください。よろしくお願ひします。

